

■はじめに

日常にあふれている言葉。どんなに科学技術が進んでも、言葉が世の中から消えることはありません。私たちは言葉によって人とつながり、そして自分を見つめているからです。言葉によって考え、動き、喜び、悲しむ……。私たちの毎日は多くの言葉に包まれています。

昔の人は言葉には靈魂が宿ると考えていました。各地に伝わる民話や物語には、その時代、その地に生きた人たちの様々な思いや願いがこめられています。言葉は時代をつなぎ、人をつなぎ、地域をつなぐ役割を持ちます。言葉はコミュニケーションツールであると同時に、個人や地域を形成する文化の担い手でもあります。

今回の「舞たうん」では、そんな「言葉」を特集したいと思います。言葉は他の地域資源のように、目に見えません。触れることもできません。しかし、地域に暮らす人たちの心を一つにすることができます。そして、地域の持つ文化や想いを訪れる人たちに伝えます。言葉の魅力でまちづくりに取り組む事例を通して、言葉と地域のもつ力についてあらためて考えたいと思います。

(研究員 河田 晋作)

■表紙のことは

生誕150年記念に「漱石アンドロイド」が制作され松山に来訪。「坊っちゃん」の舞台となった松山東高校にも訪れました。今年で20回目の全国俳句甲子園は、地方予選を勝ち抜いた40チームが「5・7・5」のことばのピラミッドに挑戦。当校は優勝まであと一步。

漱石が子規に俳句指導をと、あてた手紙が発見された矢先。

俳句甲子園でアンドロイドの惚惚たるメンバーで「ことばの力」が開催される日もそう遠くないような。

柳原あや子



●特集／言葉がつなぐまちづくり

- ①文化資源として活かす「小泉八雲」
小泉 凡／島根県立大学短期大学部 教授・小泉八雲記念館 館長 1
- ②ことばのちからで街おこし
藤田 晴彦／松山市ことばのちから実行委員会 委員長 4
- ③いのちと勇気の手紙
～「千の風になって」手紙のふるさと・西条市～
越智 将文／「千の風」手紙プロジェクト 委員長 6
- ④瀬戸内市民図書館「もみわ」ができるまで
嶋田 学／瀬戸内市民図書館 館長 8
- ⑤2017年度、松山市立子規記念博物館では
子規・漱石・極堂の生誕150年記念行事が満載！
竹田 美喜／松山市立子規記念博物館 館長 10
- ⑥“方言「幸せます」”を活用した地域ブランド戦略
山本 進／防府商工会議所 指導課長 12
- ⑦「語り」で賑わうまちづくりを目指して
～遠野「語り部」1000人プロジェクト～
前川 さおり／遠野文化研究センター調査研究課 課長補佐 14
- ⑧「絵本の里をつくろう！」からの30年
下田 秀樹／けんぶち絵本の里を創ろう会 会長 16

●地域おこし協力隊 リレーレポート

そこに愛はあるのか？

尼子 信也／砥部町広田地区 地域おこし協力隊

18

●移住コンシェルジュ通信

徳島県での空き家利活用事例について

板垣 義男／えひめ移住コンシェルジュ

20

●特選ブログ/shin 1さんの日記

ことばがつなぐまちづくり

若松 進一／人間牧場主・年輪塾々長

22

●“MY TOWN” うおっちゃんぐ

宇和盆地、二つの薬師堂と笠置越え

岡崎 直司／タウンツーリズム講座主宰・近代化遺産活用アドバイザー

24

●まちづくり活動アシスト事業(報告)

①文化芸術で魅力的なまちづくり

鈴木 美恵子／NPO法人シアターネットワークえひめ 理事

26

②「まるごと緑」住みよい緑を次の世代に繋げる組織

宮本 秀樹／まるごと緑 会長

27

●研究員報告

地域資源としての「坊っちゃん」

河田 晋作／えひめ地域政策研究センター 研究員

28